

あかしんぶん

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

クロスメディアを総合力でプロデュースする

PTC GROUP

半田中央印刷株式会社

〒475-0032 愛知県半田市潮干町1番地の21
TEL 0569-29-2525 (代) FAX 0569-29-4500
<http://www.handa-cp.co.jp>

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』就職 —自分ドラマつくろう— (96) 岡田清治



■プロフィール

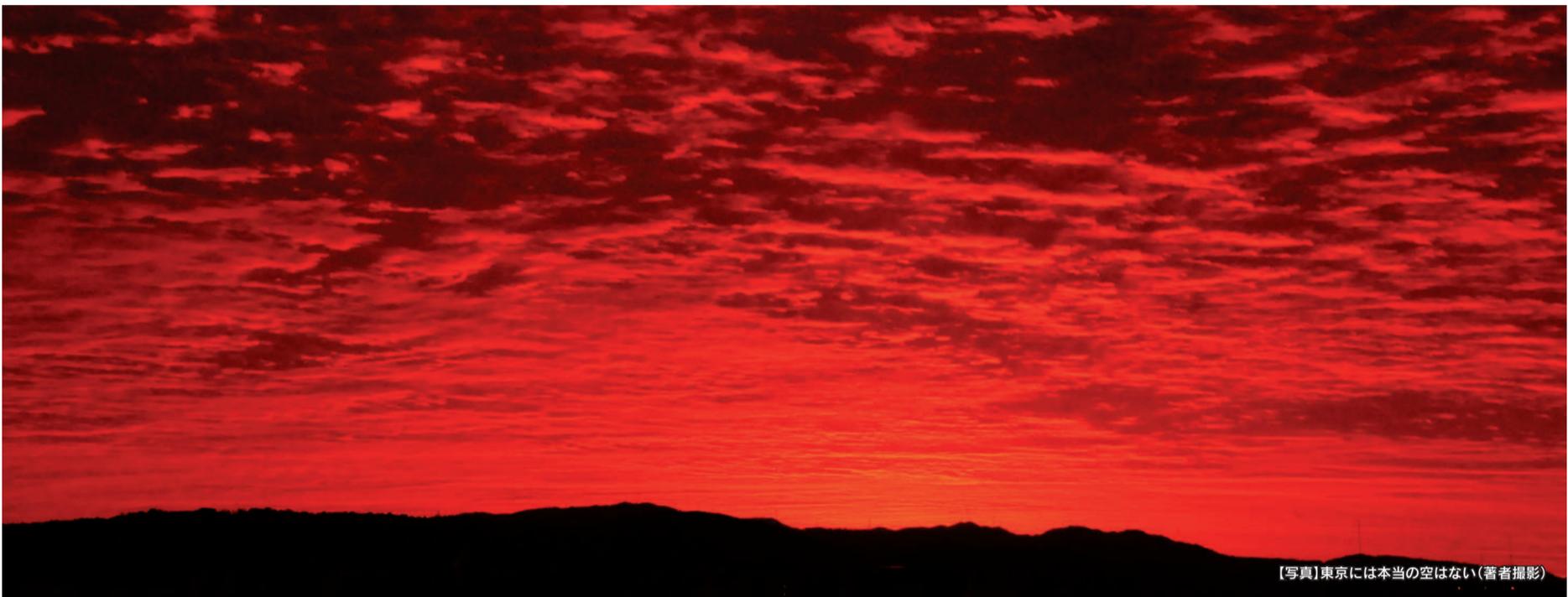
著者：岡田清治 (おかだ・せいじ)

1942年生まれ ジャーナリスト(編集プロダクション・NET108代表)

著書に『高野山開創千二百年 いっぱいさん行状記』『心の遺言』

『あなたは社員の全能力を引き出せますか』『リヨンで見た虹』など多数

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を下記のFAXかメールでお寄せください。
今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」「インド」「愛知県」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。
FAX：0569-34-7971 メール：takamitsu@akai-shinbunten.net



【写真】東京には本当の空はない(著者撮影)

姪の就職2

「バンガロールではほとんどのものが入手できるよ
うです」

「マーケットモールには映画館を併設しているの
じゃ」

「そうです。インド人は製作本数も多いですが、
映画館も多いですね」

「日曜日にオープンしている店はあるのですか」

「結構多いですよ」

「バンガロールに赴任するときに、日本から持参
しないと、現地では入手しにくいものもあるの
でしょ」

「あるよ。例えばやかん、キッチンタイマー、
箸、和食器、コヒー用ペーパーフィルター、電
子炊飯ジャー、ホットプレート、パン焼き器、洗
濯ネット、保冷剤などのほかに、入手困難なモ
ノに野菜ではニンニク、日本かぼちゃ、もやし、レン
コン、みつば、ごぼう、しめじ、しいたけ等ま
た新鮮な豚肉、牛肉、刺身の魚などです。さ
らに醤油、片栗粉、パン粉、日本コメ、味噌、
みりん、日本酒、和風だし、中華だし、洋風だ
し、のり、日本茶、麦茶や昆布などです」

「そう聞きますと、ほとんど不自由しないですね」

「だから日本からはなにも送っていません」

「バンガロールは国際都市だからインドの中でもモ
ノが豊富な都市でしょうね」

「そう思いますね」

「今日は長い間、話し込んでしまいました」

「いいですよ。お客様も少なかつたので、こうい
う日もあるのだから心配しないでください」

「では前島さん、そろそろおいとましましょうか」

「また、連絡します。ママ、おやすみ」

真三と前島は店の前で別れた。
真三は久しぶりに痛飲した。

「遅かったですね」

「遅い声で迎え、仕方ないわねという思い
から低い声で迎えた」

「すまん、すまん。久しぶりに話が弾んだのだよ」

「もう、遅いから寝ましようか」

「そうだね」

真三は寝床に入ってもなかなか眠れない。先日、
息子夫婦が東京に転勤になり彼らに招待された。
この機会に旧友に会って親交を深めたときのことを
思い出しながら、しばらく薄目をあけながら思い
出していた。

— 上京の折、交流に付き合っていたかきとありが
とうございまして。昨日夜の11時、無事に帰りつ
きました。いろいろご教示いただき、感謝していま
す。

今回、わずかな期間でしたが、東京の中心部を
巡って学ぶことがたくさんありました。お礼と言っ
ては独断と偏見ですが、東京印象を送らせてい
たきます。また写真約1,000枚から気に入
った一枚を選ぶのは至難の業でしたが、添付(奥武

蔵)見た十月サクラと紅葉のコラボレーションとい
たしますのでご笑覧ください。
旧友にお礼のメールを送った。

● 老人が消えた街

久しぶりに上京、東京の街を散策した。息子夫
婦が東京に異動した機会に、彼らが住む五反田
のマンションのゲストルーム(34F)に招待された。
そこで老夫婦の東京見物を企画した。

午前11時品川に着き、山手線の五反田駅で
降りた。周辺は普通の風景だが、マンション群
が立ち並ぶ一角は整備され夜は川沿いにイルミ
ネーションが飾られていた。息子夫婦は勤務で
留守だったので場所を確認後、時間まで渋谷の
街をうろろした。午後3時に再びマンション
に戻り、部屋に入りその高級感に驚いた。眺望
だけは圧巻だった。

この日の夕方、東京駅で待ち合わせ近くの居酒屋
屋で旧友と交流した。居酒屋には東南アジアの旅
行客が押しかけていた。飲食店の2割が消えるご
時世に、この居酒屋は午後5時から盛況だった。
この東京都心から老人が消えている—というのが
最初の印象だった。老人はどこに行つたのか。今日
一日、ほとんど老人を見かけない。この都心から
老人が消えているのではないかとつぶやくと「老人
は郊外に追いやられていると東京に住みついている
旧友は言う。そうか、老人は郊外で息を潜めてい
るのか」と納得した。

ところが翌日、上野の都立美術館にムンク展を
観に行った。この芸術の杜には多くの老人が集つて
いた。ムンクの叫びという作品のプリントを若い
ころからずっと持っていた。不思議な絵だと思いな
がら美術館内でムンクについて学んだ。彼はたえず
死を意識していたことを知った。

このあと以前から上野に行けば入った精養軒で
昼食、ここにも老人は多かった。午後から六義園
の紅葉、次に明治神宮として表参道のイルミネー
ション道を通って渋谷駅まで約40分、歩いた。

夕方、渋谷駅の前で次からつぎへとここ
ではまったく老人を見ない。聞こえる日本語や日
本人は少なく、ハチ公像の前で次からつぎへとモ
デルが変わりながら写真を撮っているのはアジア
系の観光客である。ハチ公人気はすごい。

夕食に案内されたレストランは「筋肉食堂とい
う奇妙な店名だが、筋肉マンの若いお兄さんが優
しく迎えてくれた。メニューには「高タンパク、低
糖質、低脂肪」とあった。人気があるのか、次
から次へとお客が入ってくる。とにかく変わった
メニューが並んでいた。

次の日、西武池袋線の吾野(あがの)の国民休暇
村に向かった。二〇一八年九月にリニューアルを終
えたばかりで真新しかった。東京から約一時間半
と便利な場所にある。周囲の山々の紅葉は美しく、
十月桜が彩りを添えていた。ここは秋でも野花が
咲いている。

全国の国民休暇村をほとんど訪れているファン
としては「奥武蔵」の国民休暇村はイチオシである。
もし行かれるなら「しかわ館」階の部屋を指定さ
れることをおすすめ。西川木材が有名なのか、そ
の材木で仕上げた新しい部屋だ。

翌日、ゲストルームのチェックインまで時間が
あったので、日暮里駅で降りて上野桜木に向かっ
た。墓地を抜けて「このあたり」という路地裏風に
並ぶ一角に出た。ちまうと、この日、山形の「かわ
にし」の豆イベントをしていた。紅大豆と「和紅茶」
を買って路地の椅子に座って二服、そこから鶯谷
駅に出てマンションのゲストルームに戻った。

夕方、息子の案内で恵比寿のガーデンレスタ
ワー39階の「ロングレイン」というタイ料理のレスト
ランに案内された。ここはオーストラリア人所有
のオーストラリア発のモダン・タイ・レストラン
であった。「生きてる間に二度とこれないところ
だ」と脅かされた。客の多くは若い男女や子連れの
夫婦も来ていた。子どもたちからこいう雰囲気
を味わっておくといいたのは、息子が言う。
それにしてもタイ料理は合わなかった。それを見て
「これからの時代、多様性を受け入れられないと
生きていけない」と残した料理を見ながらつぶや
いた。レストラン内の従業員の流れも振る舞いも
速い。

確かに老人は変化を嫌い、新しいことに挑戦し
ない方がいいがある。老人と若者はこの先分断され
いく予感がする。同居なんかできなくなってきた
り。もはや老人にとつて若者は宇宙人とさえ見え
てくる。

老人も新しいことに挑戦し多様性を認め、受け
入れないとこれからの100歳時代は生きていけな
いと言われるが、どこまでできるか、やるかは疑問
だ。街や建物、住まいなど新しい時代に入っている
ことを感じた旅だった。

今回の東京で気になったことがある。山手線の
車内の到着情報を見て、それぞれの駅で接続列車
の多くが、また山手線自身も次の駅で緊急停止
ボタンが押されています。たえず遅延情報を
流していたことである。これほど細かく情報を
提供できるシステムに驚いた。「それにしても東京
の電車はよく遅れるね」とつぶやくと「みんな慣れ
ているし、ありがたいと思つている」という。『電車
の遅延に感謝』という本が出てくるくらいだ。

「多くのサラリーマンは待っている間にすることが
ある」とも言われた。

最終日。朝9時30分、ゲストハウスを出て新橋
に向かった。ここから浜離宮まで15分歩いた。ここ
は主に欧米の観光客がちらほらいるだけで、秋の浜
離宮を楽しめた。あの話題の築地市場が500m
先にあるから参考の為、行ってみた。大変な人出で
とくにアジア系の観光客が路上飲食しているのが目
に付いた。とても飲食店で食事できてもないの
近くのビルの食事処でサラリーマンに混じって日替
わりランチを食べ、パートナーと別れた。

